

# 2016年8月の金融セミナーのお知らせ

日本テクニカルアナリスト協会  
講演 I 部

今般、講演 I 部では野村総合研究所の井上哲也氏を当協会へお招きし、下記の通り、講演会を開催することになりました。開催日まで日時は限られていますが、個人投資家や機関投資家の方をはじめ、多数の会員の方のご参加をお待ちしております。

----- 以下は講師からのメッセージです。-----

「ユーロ圏では実体経済が底堅く推移し、インフレ率にも改善の兆しがみられる一方、一部国で金融システムが不安定化し、ECB による資産買入れには早くも限界が露呈しつつあるなど事態は複雑化しています。

英国も、パニック的な反応は沈静化しましたが、ポンドの国際通貨としての地位や国際金融センターとしてのロンドンの機能を巡る不透明性のため、資本フローと為替レートを通じて金融経済に中期的な影響が生ずることが想定されます。このため、ECB と BOE による金融政策も目標のウエイトや時間軸の点で見直しが生ずることが考えられます。

今回の講演では、ユーロ圏と英国の金融経済に生ずる変化を整理しながら、金融政策の戦略の変化を展望したいと思います。」

日 時： 平成 28 年 8 月 26 日 (金) 18:30~20:00

テーマ： **「ユーロ圏と英国の金融経済情勢と  
金融政策の展望」**

講 師： **井上 哲也氏**

野村総合研究所 金融 IT イノベーション研究部長、  
主席研究員

会 場： 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 4 階  
(東京証券取引所の西隣、NTAA 事務局のビル)

会 費： 会員：無料、非会員：3,000 円



<講師職歴>

1985年日本銀行に入行。1987年から通商産業省(当時)に出向、ベンチャーファイナンスに関する調査と政策支援に従事。1989年に日本銀行に復帰、債務国問題と国際金融支援を担当。米国イェール大学経済学大学院に留学後、1992年から日本銀行で邦銀主要行の国際金融業務に関するモニタリングに従事。1994年から福井俊彦副総裁(当時)の秘書を担当した後、1996年に金融研究所に異動し、IT革命の影響に関する研究プロジェクトを主宰したほか、公式解説書である「新しい日本銀行」(有斐閣刊)の編集に従事。2000年から植田和男審議委員(当時)の専属スタッフを担当した後、2003年からは金融市場局で証券化市場や事業再生ファイナンスの活性化をサポート。2004年からは同局の外国為替平衡操作担当総括として為替市場のモニタリングを担当。2006年より同局の国際金融為替市場担当の参事役として、BISやEMEAPなど国際金融市場に関する会議に参画。この間、東京外国為替市場委員会の書記として、同委員会の運営をサポート。

2008年12月に野村総合研究所に入社。現職では、内外金融市場の動向や政策運営を調査するとともに、2009年からは研究者と実務家による定期会合である「金融市場パネル」の運営と、その成果の内外の政策当局や実務家との共有を通じて中央銀行の役割や機能に関する議論に貢献している。また、経済専門誌(「週刊エコノミスト」、「週刊東洋経済」、「金融ビジネス」、「月刊資本市場」など)に多数の寄稿を行っているほか、日経CNBCやテレビ東京等の経済専門番組でも日米欧の中央銀行の政策に関するコメントを行っている。こうした活動の一環として、中国のシンクタンクである「中国金融四十人論壇」と共同で、日中金融円卓会合を立ち上げたほか、2013年には、金融庁より特別研究員に委嘱され、「マクロ・プルーデンス」に関する米欧での議論についての調査を行い、報告書を提出した。

